



Title	「食糧の入手困難による健康問題」
Author(s)	忍足, 謙朗
Citation	目で見るWHO. 2017, 62, p. 7-10
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86645
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「食糧の入手困難による健康問題」

WFP（国際連合 世界食糧計画） 元アジア地域局長 忍足 謙朗



Kenro OSHIDARI

30 年以上にわたり、国連に勤務し、人道支援、開発支援の現場で活躍。WFP ではボスニア戦争、コソボ紛争などの紛争地、内戦時代のカンボジア、スーダン共和国等で大規模な緊急支援の指揮をとる。2009 から 2014 年、WFP アジア地域局長を務め、アジア 14 か国の支援の総責任者となる。2015 年から日本国内での活動を開始し、国際協力に興味を持つ若い世代の育成や、防災・緊急支援分野での活動をしている。

▶食糧安全保障

食糧安全保障の定義は、すべての人が、いかなる時にも、活動的で健康的な生活に必要な食生活上のニーズと嗜好を満たすために、十分に安全かつ栄養ある食料を、物理的にも経済的にも入手可能である

ということである。簡単に言うとすべての人がおいしくて栄養のあるものを食べられるということ。しかし、世界中で約 8 億人、世界の 9 人に 1 人が食糧安全を保障されていない。要因は大きく 3 点ある。まず、かなりの食料が捨てられているという配給の

問題。また、自然災害などによって生産量が低下してしまうことなどによる供給の問題。そして、マーケットには食糧はあるが、その食糧を買うだけの経済力がないことによる貧困の問題。これら 3 つの要因により食料安全保障を享受できていない。

▶貧困と食糧安全保障

スリランカで行われた調査は、住民がその地域のマーケットでバランスの良い食事を作るために必要な食材を買うことができるかを調べたものである。これは理論的に、どのくらいの人々が栄養バランスの良い食事をとることが可能かということ进行调查したものである。調査の結果、住民のなかの 10%の人たちがマーケットに行き、収入の 50%を使って食糧を購入しても栄養どころか必要なカロリーをとることができないということがわかった。つまり、マーケットに食糧があっても必ずそれを買えるとは限らないということが明らかになった。この調査は、栄養を十分にとれているかどうかは食べ物だけでなく、衛生や家族の教養による側面もあり、ちゃんと買うことができても子供に与えているとは限らないということも明らかにした。ある村では 80 パーセント近くの村の人たちが、マーケットでバランスのいい食事を作るために必要な食材を買うことができないところもあった。

▶発育阻害

5 歳未満の子供が栄養不良が直接の原因で亡くなった数は 1 年間に **300 万人**にのぼる。1 日にすると 8500 人が亡くなっていることを意味している。状況はよくなってきているものの解決はしていない。赤ちゃんがお腹にいる間から 2 歳までがおおよそ **1000 日**とされており、その時期に栄養を摂取できないと発育阻害になってしまう。そのため、お母さんが栄養バランスのいい食事を摂取できていることが大切である。お母さんの栄養状態がよくないとお腹にいる赤ちゃんだけでなく、生まれてからも影響を及ぼす。発育阻害は年齢に対する身長が低いのが特徴で、認知的な発達、学習能力の阻害も重要な問題となる。

成人してからの生産性が低く、成人病（糖尿病）にもなりやすいこともわかっている。世界銀行によると、この発育阻害が原因で、国の GDP が 11%くらい変わってくるそうだ。そのため、開発支援も栄養に着目していけば、効果が表れるのではないかと考えている人もいる。世界の 5 歳未満の子供の 4 人に 1 人が発育阻害といわれ、その 90%がアジアとアフリカに集中している。発育阻害の大きな問題は、2 歳を過ぎてから栄養を与えると、予防することはできても治療はできないという点である。そのため、先に述べた 1000 日がとても大事になってくる。もちろん食べ物だけでなく医療・衛生・栄養への知識、教育も必要である。貧しかったり、不健康な両親の間に生まれた子供が発育阻害になって学校にいても落ちこぼれたり、学校行けなかったり途中でやめさせたりしてしまう。そういった子供が大人になり、また貧しい家庭を作ってそこからまた貧しい子供がうまれるという貧困の連鎖がある。どこかで断ち切るためには栄養が大事だ。あとは教育。子供が親よりも良い教育を受けないと貧困のサイクルも変わらないのではないかと。WFP、WHO、UNICEF、FAO は様々な国で首相や大統領に対して会う機会があると、「子供に投資してください」と伝えている。国連ができることは限られているため、最終的にはその国で対策を進めていかないと、発育阻害の状況はなかなか変わっていかないのである。WFP は栄養プロジェクトを北朝鮮でも行っている。北朝鮮でも発育阻害の問題があり、みんな背が低い。隣の韓国と北朝鮮で大人の平均身長も全く異なる。



▶食糧支援に使用される特別食

一般的に WFP で行う食糧援助は主食からで、これは国や地域によって、アジアは米、アメリカはトウモロコシ、中央アジアは小麦粉というように国や地域に合わせて選択している。そして蛋白源。WFP では肉などの生ものは使えないので豆類を使っている。他にも食用油と塩を主に使用している。たまに砂糖を使用することもある。WFP、FAO の基準では 1 日 1 人 2100 カロリーの摂取が推奨されている。難民キャンプでも同様に主食、豆、油が配給されている。現在は WFP も栄養面についても考えていこうということで、5 歳未満の子供が学校給食を通して食べられる特別な栄養食を作り始めている。例えば、トウモロコシの粉ときな粉をまぜ、砂糖、粉ミルクを加えてお湯で溶いたようなものがあげられる。学校給食、学校行事、緊急援助時に役立っている。混ぜて、お湯で溶かすだけなので手間があまりかからない。あとは、高価だが、フランス製の特別食もよく使われている。ピーナッツバター状でカロリーが高く、開けてすぐ食べられるタイプである。また、現地で作っているものも増えていて、レンズ豆をすりつぶしたもので、高カロリー、高タンパクでビタミン、ミネラルも多く含まれている。そのほかにビタミン、ミネラルが多く含まれたふりかけもあり、調理したものに振りかければ食べられる。また、カンボジアなどで学校給食に使われているお米の形をしたビタミンもあり、お米 100 グラムに 1 つ混ぜるだけで栄養を補える。小麦の栄養を強化するものはあったがお米は今までなかった。理想は、このようなものをすべて現地で生産し、スーパーに誰もが買える安価な値段で置いてあることである。だんだんそうになっている国も実際に出てきている。

▶特別食以外のアプローチ

こういう特別食もお金がかかるため必ず届けられるわけではない。そこでもう一つの方法として教育的アプローチも行っている。ラオスの山岳部を例

にすると、教育的アプローチとして、パズルを用いて、私たちの身体は食べたものからできていることを伝え、現地で自分たちが集められる食糧でバランスのいい食物を提案する活動を行った。そして、という調理法で食べるのがいいのかの指導も行った。

学校給食は、栄養というよりは子供を学校に来させる、一食食べられるからと親が学校に行かせたがるようにするという意味で充実させるということも行っている。例えば、学校行くのに 2 時間かかる。朝ごはんを食べていないと学校に行くだけでお腹が空いてしまうということもあるため、場所によっては、朝来たらご飯を食べさせることや、お昼まで待つこともある。ある国では学校に来たらビスケットを出すようにしている。学校給食を行うと統計的に学校に残る率が上がるという変化もみられる。ある地域の人たちは女の子を学校に行かせないということもある。そういうところは、女の子が一ヶ月来たら食用油など、その地域の高価なものをお土産に渡すことも行っていた。賄賂のようではあるが効果はあり、学校に通う子供の男女比が 50 対 50 になった。結局、男の子にもあげないのはおかしいということになり、最終的には全員に配給することになった。ブータンでは、現在の政府のトップが学校給食を食べて育ってきた人たちであるため、彼ら自身が学校給食の大切さをよく分かっていて、2015～2018 年の間に WFP の支援の割合を減らし、ブータン政府が負担を増やして、2018 年には政府で学校給食を行うと約束してくれた。そうすると WFP の支援から卒業できるということを意味するので我々もうれしいことである。

▶自然災害と紛争

貧困の人々が自然災害に遭うと、それだけですべてのもの（家、食糧、仕事）を失う。そのような状態では、WFP で本来行わなければならない支援をすることが困難になってしまう。自然災害は 50 年前から増えているため簡単に解決することは難しい。

紛争は世界から全く減っていない。国連の中で一番お金を使っているのは PKO であり、1 年で 80 億ドル、8000 億円が使われている。次が WFP で 1 年間に 4000 億円使われている。食糧は生きるために必要なもので、これらのお金は基本的に人間が作った問題によって生じた問題に対して、人を生き延びさせるために使うお金である。もしそれだけのお金を、栄養や教育に使えたら、どのくらい世界がよくなるかをもっと考えるべきである。

